

統計

●瑞典國に於ける鐵鑛石の輸出に就て

(一九二七年)

同國昨年十月中に於ける鐵鑛石の輸出高は非常なる減量を示し最近四ヶ年間の各月輸出高の最小限(一九一四年八月中の二十一萬一千噸)より猶ほ少なく僅に十八萬六千噸に過ぎすと云ふ。而して一九一七年中の總輸出高は五百六十一萬三千噸にして一九一六年中の同上五百五十四萬噸一九一五年の同上五百九十萬三千噸一九一四年の同上は四百七十八萬七千噸なりしと云ふ。

●瑞典國に於ける銑鐵輸出單價表 (一九一四年一月より一九一七年八月に至るまで)

同國官憲の發表したる總計表を筆記すれば左記の如きものなり。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
壹月	五〇、〇六	五四、〇二	九二、九五	二二四、〇〇
貳月	五〇、三〇	五七、四一	九七、六二	二二四、〇〇
參月	五、一二二	五八、九〇	一〇六、〇二	二〇一、四六
四月	五一、一二	六六、四八	九九、一一	二二二、四四
五月	五二、一二	六七、八一	一一六、四九	一七三、八〇
六月	五二、一二	六六、六六	一一三、九一	一九三、六六
七月	五一、五四	六九、九九	一一六、一〇	二一三、五七
八月	五五、一五	七四、九六	一三〇、七〇	二二三、二三
九月	五二、六三	七四、四五	一三三、七七	
統計				

拾月	五二、八〇	八五、二三	一四四、七九
拾壹月	五三、〇一	九二、四八	二一五、六〇
拾貳月	五三、〇五	九六、四一	一九一、三五

●加奈太に於ける造船事業近況

オッタワにて官憲の發表したる統計表に據れば加奈太に於ては昨年十二月上旬に建造中の船舶五十一隻に上り其の造船數を地方別にすればブリチッシュ、コロンビヤ三十三隻残り十隻はオンタリオ、ケベック及ニュー、ブランズウィック等の地方なりしと云ふ。以上の外鋼製蒸氣漁船三十六隻平均全長百二十六呎の木製牽船百隻を建造中にして是等小型船舶は英國政府の使用に供せらる爲めのものにして重に同國近海の商業其他の用に供せらるゝと云ふ。

●伊太利國鑛業統計 (一九一六年)

左記事項は最近同國官憲の發表したるリビスタ、デル、サーピジオ、ミネラリオ(同國農商務省鑛山監督官の集めたる材料により編纂せられたるもの)より拔萃せられたるものにして一九一六年同國鐵鑛及鐵類の產出及製造等に関するものにして一九一五年の之等に關する模様も比較のため附記せり。

鐵及其の他の鑛石

一九一六年同國に於ける鐵鑛產出高は二十八ヶ所の鑛山より含有平均量四八・七九パーセントのもの九十四萬二千二百四十四佛噸にして一九一五年同上二十三萬山より含有

平均量五〇・一パーセントのもの六十七萬九千九百七十佛噸なり。含滿俺鐵鑛は一九一六年三ヶ所の鑛山より四千三百六十佛噸滿俺鑛は十八鑛山より一萬八千四百四十七佛噸（滿俺鑛は一九一五年は二十鑛山より一萬二千五百七十七佛噸）。銅鑛は七鑛山より八萬八千四百七十五佛噸（一九一五年は五鑛山より七萬四千四百七十佛噸）。鉛鑛三萬九千四百六十佛噸。亞鉛鑛九萬四千四十三佛噸。鉛及亞鉛混合鑛百佛噸は八十三鑛山より（一九一五年鉛鑛四萬一千五百九十佛噸亞鉛鑛八萬六千二百二十二佛噸鉛及亞鉛混合鑛二百五十佛噸は八十七鑛山より）產出せられたりと云ふ。

銑鐵

一九一六年同國銑鐵總產出高は四十六萬七千五噸（但し一九一五年同上三十七萬七千五百十噸）内木炭用爐より製せられたるもの六千六百三十噸電氣爐にて製せられたるもの一萬六千九百十一噸にして殘全部は普通鑄鑛爐にて製せられたものなりき。上記銑鐵中には三パーセントの硅素を含有せる硅素銑一萬六千九百十一噸は全部電氣爐より製出せられたるものなりと云ふ。（一九一五年に木炭用爐より製せられたる銑鐵は四千二百七十九噸。電氣爐よりの同上三千八百噸なりき）

以上の外一九一六年にはエリアナイト二百五噸の外各種合金銑合計二萬三千百六十噸を產出せり。（但し一九一五年同上八千八百十三噸）

上記同國一九一六年の銑鐵は骸炭用鑄鑛爐八基木炭用鑄鑛爐四基各種電氣爐九基より產出せられたるものなりと云ふ。

鍊鐵及鍊鋼

同國に於てはバッドル法による製鍊法は實用的には既に終息を告げ目下平爐八十基（一九一五年には六十七基）ベッセマー轉爐三基（一九一五年には一基）ロバート轉爐四基（一九一五年と同上）各種電氣爐三十四基（一九一五年二十基）及坩堝爐二基（一九一五年と同上）ありて一九一六年には是等より鋼及鑄鐵合計百二十六萬九千四百八十六噸を產出し（一九一五年には百萬九千二百四十噸）内二萬四千四百二噸鑄物（一九一五年一萬七千九百二十噸）残り全部は鑄塊ブルーム及其他なりき。

一九一六年に鍊鐵及鍊鋼產出原料としては内地產銑鐵四十二萬七百二十五噸（一九一五年四十萬八千三百三十五噸）輸入銑鐵十六萬五千三百七十一噸（一九一五年は八萬七千七百五十五噸）内地產屑鐵五十四萬二千二百七十二噸（一九一五年四十萬二千七百八十噸）及輸入屑鐵二十五萬六千四噸（一九一五年十八萬九千十噸）其他鐵鑛石五萬五百噸（一九一五年四萬四千四百噸）内外合金銑三萬四百拾貳噸（一九一五年三萬三百噸）となりき。

以上製出鋼其他の内平爐にて百十九萬二千七百噸轉爐にして四萬三千三百九十九噸電氣爐にて三萬二千六百七十七

噸及坩堝にて七百十噸を製出せられたり。(平爐の項中バサネシ電氣爐より製出せられたる若干の不定品質の鋼及特殊合金鋼一萬一千四十七噸も含有せり)

猶ほ一九一五年鋼及其他の製出せられたる爐の種類及其の製出高は平爐九十七萬七千九百六十二噸電氣爐二萬六千九百四十三噸ベッセマー。ロバート轉爐二千三百三十五噸及坩堝二千噸なりき。而して一九一六年使用の三十四基の爐中其の名稱分はスタサノス十五基(九)ギロズ二基(一)スタサノ。バサネシス十二基(六)ヘーロールツ三基(三)バサネシス一基(一)及アンギオリニ一基なりき(但し括弧中の數字は一九一五年に使用せられたる基數なり)

●瑞典國商報端信

瑞典ボール、ベヤリング製造株式會社は齒輪製作の新計畫及其の製作機械購入に對し參千五拾萬圓の資本金を四千六百七拾參萬圓に増資するため一割のプレミアム付にて株券を發行せりと云ふ。又ノールコーピングのキス、アクテイボラグ社は過般約百年以上放棄せられたる同市附近の鐵鑛及黃鐵鑛區の採掘を開始し最初年産四萬五千噸搬出の計畫にて一九一九年度内には九萬噸に増加せんとなしつゝあり。

元來同國に使用したる坩堝は總て輸入物のみなりしかは大戦開始以來非常に其の缺乏を來し困難の状態にありしか

ストックホルムのスタンナム會社にては種々研究の結果能力二分の一ハンダレットウエートまでの坩堝製造に成功し目下商業的規格型を作成せん事に努力しつゝありと云ふ。

●土耳其に於ける造船に就て

同國コンスタンチノーブルに於てソーサエテ、デ、コンストラクシヨンス、マルタイムスなる名のもとに資本金八拾八萬餘圓の新造船所設立せられたり而して其の目的とする處は純然たる内地用のものを作ると云ふ點にありと信せらるゝ報告によれば既に同國近海用百噸級の小蒸氣船百五十隻製造の契約を同國政府との間に定結せりと云ふ。

●北米合衆國一九一七年に於ける造船概數

同國昨年中の造船總噸數は合計九十萬一千噸に達し(但し一九一六年同上は五十六萬噸)内同國々籍に登録せられたるもの五十二萬噸外國同上四十萬噸なりき而して同國從來の造船最高記載は一九〇八年の六十一萬四千二百十六噸なりき。

●瑞典國製鋼及製鋼 (一九一六年)

左記は最近出版の瑞典ジャーナ。コントレット社のアンラーに記載せられたるものゝ抜粹にして同年同國官憲の發したる公報を基礎とせるものなり。比較に便せん爲め一九一五年の公報も附加せり。表中噸とあるは總て佛噸と心得られたし。

一九一六年中に於ては直接鑄鑛に適する鐵鑛五百八十六萬一千六百五十一噸か三百四十五鑛山より産出せり（但し一九一五年同上五百八十六萬二千八百十三噸か三百十三鑛山より産出）

左表は爐數及銑鐵産出高を示す。

名 稱	一九一六年(噸)	一九一五年(噸)
鍛 鍊 用	一九一、五六二	一六一、八三五
ベッセマー用	一一五、〇八三	一二一、四七六
平 爐 用	四〇一、五一四	四一九、六八六
鑄 造 用	五二、〇一八	四五、九三一
直接鑄造物	一二、五五七	一一、七七三
合 計	* 七三二、七三四	* 七六〇、七〇一

* 印中に電氣爐より得たる銑鐵も含む。

	一九一六年	一九一五年
銑鐵爐を有する工場	七七	七八
銑 鐵 爐 數	一一一	一二〇
(イ) 壹年間連續使用のもの	一一一	一二〇
(ロ) 豫 備 爐	三三	三一
銑鐵爐使用延日數	三三、〇三四	三五、六二八
一日平均壹ヶの爐より産出する銑鐵の量	二二、二	二二、四

上表一九一六年製銑量の内六十六萬二千六百九十一噸は木炭のみを使用し（一九一五年は六十七萬四千三百六十噸）一萬二千二百八十一噸は木炭及骸炭混用（一九一五年は九千七百四十九噸）残り五萬六千五百九十二噸は骸炭のみにて（一九一五年は七萬六千五百九十二噸）産出せられたりと云ふ。

一九一六年同國に於ては電氣爐入基運轉せられ合金を含

まざる銑鐵四萬四千七百八十二噸を（一九一五年は三萬七千七十五噸）又合金を含む銑鐵二萬四千七百七十噸を（一九一五年は一萬六千五百七十一噸）産出せり。

而して一九一六年には銑鐵一噸に對し木炭二十二・一立六十・八ブツセルを要し（一九一五年は二十四・九立即六十・八・五ブツセル）たり。

一昨年及一昨年同國に於て操業せられたる製鐵設備工場爐數及轉爐の數は左記の通りなりし。

製 鐵 工 場 爐 數	一九一六年	一九一五年
(イ) バッドル屑鐵製造用爐	一八五	二〇六
(ロ) 屑鐵鑄融爐	九	八
(ハ) 平 爐	七九	七八
(ニ) 坩 埚 爐	九	一〇
(ホ) 電 氣 爐	一七	一〇
(ヘ) 炭 滲 用 爐	三	二
ベッセマー轉爐	一六	一八

而して一九一六年鍊鐵及鍊鋼の産出高は左表の如し

	一九一六年(噸)	一九一七年(噸)
ベッセマー鋼(酸性)	二六、三九五	二五、五四四
同 上(鹽基性)	四九、一三四	六五、一四九
同 上(酸性屑鋼類)	五〇二	三七七
平 爐 鋼(酸性)	二三二、七七四	二二九、四一四
同 上(鹽基性)	二七七、五四八	二六七、〇一六
同 上(酸性屑鋼類)	一八、三六七	一七、三三六
坩 埚 鋼	二、七四二	三、三七五
屑 坩 埚 鋼	一	二〇

電氣爐製鋼	五、四三一	一、六四七
屑電氣爐製鋼	一、二一七	五四〇
泡鋼	二七八	一四八
鍊鐵ブルーム	一一九、一五六	一一九、六二九
合計	六一四、三八九	六〇〇、五六六

又一九一六年鍛鋼鍛鐵及延鋼延鐵產出高は左表の如し、

	一九一六年(噸)	一九一五年(噸)
鍛鋼鐵材	四六、六六二	四二、四〇三
ピレット及ブルーム其他	二五二、二〇〇	二七〇、四〇六
鐵管及其他	九八、五〇六	一〇五、二一〇
丸棒角棒及平鐵	一三九、三九五	一三〇、六八〇
アングル、ジョイスト型鐵	二三、一七五	二九、一五五
軌條	三	二六
ヒツシユプレート及ソールプレート	九六五	九四七
車軸	三、一八三	二、二八八
輪鐵及帶鐵	八三、〇八四	八三、七四〇
線材	六九、四九二	六四、八四〇
小割板	一三、四五五	一一、一九三
鋼板及鐵板	二九、三〇四	三三、八六六
鋼葉及鐵葉	二九、三五九	二九、八八〇
各種壓延鐵及鋼	九、三七二	一〇、八二二
棒切斷片	三二、九七一	五一、五六一
車輪	六、二三五	五、五五三

●瑞典國に於ける一九一七年度の造船事業に就て

諸威國一船舶雜誌通信記者は一九一七年度瑞典國造船業に關し評論を發表し同國は同年度に船舶進水及船舶製造註

文に對し一高記録を得たる事を述べたり。

元來一九一五年に於ては全國造船所に於て合計貳萬噸の鋼鐵船の進水を見たるか一九一七年に至りては少くとも二萬九千噸の船舶進水完成せる事明かなり。此の内半數の壹萬四千百五噸(軍艦を除く)ゴセンブルグ造船所により建造せられたるものなり。

昨年中に五ヶ所の造船所建設せられ且つ幾分増資せられたりと云ふ。ソルベスボルグ造船所及ブロデン造船所何れもゲフル所在。又鐵筋コンクリート船建造の造船所一はマルモーに他はストックホルムに

最も注目し價する事は一九一七年中に未だ嘗て同國に於て建造し得られざりし死重五千百噸の商船モーター、シツプ船名バラレン號の完成せる事なり。

猶同國各造船所は何れも過大の造船契約を締結し此等契約噸數高を合計せは二十萬乃至三十萬噸に達し同國一九一七年中の同國造船能力にて之れ等船舶を建造するものとせは少くとも約十ヶ年の日數を要すと云ふ。

諾威國に於ける新製鐵所設立計畫

同國企業組合に於てはナルビツク附近のストラムポールに一大製鐵所建設の計畫を立て目下の其の實行に着手せり而して其の規模は年産二十五萬噸の製鐵にありと云ふ。

●輸出入貨物品別表(大藏省發行の大正七年三月外國貿易月)
 (表中鐵及鋼に關するもの左表の如し)

第一輸出貨物品別表

内國產品	大正七年三月		大正七年累計		大正六年三月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵塊及錠(斤)	五三三、四五八	九六、四五八	一、四六〇、二四三	三三三、一七六	一一九一、〇三九	六七、一八九
條竿及板(斤)	一、三七九、九九九	四六三、四〇三	四六二〇、五三五	一、四九九、〇三五	四、一二一、五二三	七四〇、三三七
線索(斤)	五〇五、〇〇七	三七九、四四〇	一、六四八、八九六	八八六、四五三	一、四二七、八三七	三九一、四一四
筒及管(斤)	四八三、一三三	二〇三、〇九三	一、四二六、八九九	五三三、九八四	一、九八三、六六七	二七一、四三三
鐵鍋及鐵釜	—	一四、三二一	—	六六、七四五	—	七三、六六八
鐵製品	—	二、九三七、七八〇	—	七、四〇六、七四九	—	五、六二五、八八三
人力車(輛)	三二四	一三、〇一一	六五六	二五、四七三	六三三	二一、六〇五
船舶(汽船)	五	一三、一六三、三七	二	二九、八九八、八六四	二八	一三、六八四、四六〇
機械同部分品及附屬品	—	一五、〇〇〇、六四七	—	三三、三〇六、六五八	—	一七、六六八、一一八
石炭(噸)	一七四、八五四	二、五二二、六七三	五八六、七四七	七、九一七、二九四	七三八、八五四	五、九八〇、七四三
コークス(噸)	三七〇	二四、七七三	八四二	六七、五三〇	七二二	一三、八二一

第二輸入貨物品別表

外國產品	大正七年三月		大正七年累計		大正六年三月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵鑛(擔)	二五四、五五八	三九八、五三八	八九一、一九四	九三三、五九四	一九四六、二二	九五、四三二

統計

外 國 産 品	大正七年三月		大正七年累計		大正六年三月累計	
	數	價	數	價	數	價
銑 鐵(斤)	一七,三〇一,二〇五	二,〇八二,六〇五	四八,八五四,三七七	五,九五〇,七五九	五九,三七五,三九三	二,六九二,四四一
スビーゲルアイゼン(斤)	—	—	—	—	一八,一二一	一四四〇八
フエロマンガニース(斤)	一二〇,三四一	四一,〇五三	三六六,七三九	一二四,五〇〇	三三八,六八三	五七,一八〇
フエロシリコン及シリ(斤)	一六九,三四四	三一,八七六	三九五,九五五	一〇六,八四五	四三七,一七九	九五,九三三
フエロクローム其(斤)	—	—	六〇,二七三	二八,四四四	三九五,二二九	一〇〇,九二七
他不可鍛性鐵合金(斤)	—	—	—	—	—	—
ピレンゴットスラブル(斤)	二,二七一,八七六	七四五,〇五九	三,四五一,三〇九	一,一二六,七六〇	一,二三七,六三〇	一七〇,七七九
ケツグ及バンブースチル(斤)	—	—	—	—	—	—
條竿、テリアングル形鐵類(斤)	五二,七九四,八五四	一〇,〇六七,八九七	一四五,六〇七,四一四	二六,七八〇,八六九	七八,一〇〇,五八三	七,九七六,一三三
ワイヤロッド(斤)	三,三六三,六七八	五〇〇,四四九	一〇,二八二,六二八	一,六八二,七二七	六,三三五,五〇一	九五二,〇二一
板 (金屬を鍍せざる)(斤)	二八,九二〇,五九六	八,二六三,三七七	八〇,一〇四,五三三	二二,〇九九,六六一	六八,一〇六,〇五三	八,〇七四,九二〇
板 (電鍍したる)(斤)	二六四,二〇三	七三,三六二	七三二,一二二	二〇三,八七四	二,七五七,五五三	四五九,三三〇
板 (葉鐵葉鋼其他)(斤)	二,二九八,一二一	九七二,八二四	六,六九四,六九八	二,六三五,六二二	一一,一九一,八九九	二,二二〇,八六四
線 (金屬を鍍せざる)(斤)	六七八,五三四	一四〇,二七四	一,六〇七,四三三	三三二,二〇二	一,五三五,六八一	二六二,三〇九
線 (電鍍したる)(斤)	三,三〇〇,一二〇	七〇二,五三〇	七,一六〇,六二六	一,五〇八,七二一	七,二二一,五一九	一,三六六,七二七
屑 鐵 及 故 鐵(斤)	八七〇,九五〇	八五一,一一八	三,一一一,六七三	二,五三五,八一九	二八,三五三,九一四	九二一,六五九
線 索 及 撚 合 線(斤)	三〇,三六二	九,四七〇	四三,四五二	一六,四一三	二九,六八五	三三,二二六
筒 及 管(斤)	四九〇,六四九	一,三三四,〇七八	一一,八九六,二二五	七,五七六,三三二	七,六二八,四八四	一,三三二,一九二
帶 及 箍(斤)	九三六,七二五	二四五,八九五	二,二二五,一二五	五八二,四四三	一,四九六,四八〇	一五六,六四八

六七七

釘	類リベスバイキ	三、七五二、七五三	八七四、〇九五	七、九三三、八一四	一、八八九、三七八	五、四九三、四八九	五二一、八八六
鐵道建設材料(其の他)	一、八六〇、〇〇〇	一、四九八、二八五	三三、三三八、八一四	四、一五四、九八四	三、三三六、二九九	五一、八八六	
電線支柱及同支架用材料	八三五	四〇八	八三五	四〇八	一、九三二	一、〇五〇	
家屋橋梁船舶等建設材料	八三四、六七五	一七七、二〇五	一、七〇九、四五七	三五六、〇〇三	二七一、一〇八	五五、九九〇	
鐵道車輛及同部分品		七五、二五三		二〇七、〇一五		一九三、五六四	
自動車及同部分品	一四五	五〇七、三七六	三四五	一、一八四、五三五	七〇	二三〇、九九九	
自轉車及同部分品	一五三	一五六、六九〇	五一三	三三四、五六三	九四〇	一三六、八一六	
汽船(船齡十年以下)(隻)	一	五、九六〇	四	一三、一六〇			
同(其他)(隻)	一	五、〇〇〇	五	一、五一九、五七五	一	四七二、三〇〇	
汽罐同部分品及附屬品		三三〇、七八二		一、三五二、一三九		三三二、九七八	
フューエルエコノマイザー(斤)	一、〇一三	二五〇	一八四、〇六二	二五、八三一	四四二、八八〇	四四、三九八	
蒸氣機關	二七、三七八	三四、七八五	一二八、五三四	七六、六四二	二六、三四〇	二八、〇三四	
瓦斯、石油、熱氣機關	四三、八八七	八四、五一四	五九、五四〇	一〇八、九四四	二六、九四〇	二八、〇三四	
ウォータータービン及ベルトン水車							
發電機電動機類	三二、九一三	二七三、七二五	六六〇、一〇〇	五三四、六〇五	八八、九〇六	七三、六六五	
縫衣機	一七四、二〇一	一六二、一三三	六七二、二四〇	六〇七、三六九	二四五、六八七	一八九、一七三	
金屬工及木工機械	三三八、一二三	二八一、八一七	一、三六五、六八六	一、〇三四、七八三	七二、一三六	五一三、六六三	
紡績機	九三、四五四	三五八、三三七	二、九五三、四八二	一、〇八〇、七一一	三、三八三、二七三	一四二、六六一	
石炭(噸)	二二、七二三	八、四三〇	五八五、八四〇	一六、〇五四	七、九六〇、二七三	一四三、六六一	
コークス(噸)	八四、五三九	一、三四七、四五五	二二二、〇二四	三四七七、一四四	一、四六六、五三五	一、三六五、九九七	

◎大正七年三月中本邦鐵及重要金屬並石炭產額表（農商務省鑛山局調）

鐵の產出狀況		大正七年 三月	大正六年 三月
鑛山名	所在地		
釜石	岩手(銑鋼)	五、七二〇・二 一、五九一・二	四、〇〇六・四 一、五九二・四
仙八	同(銑)	三〇四・三	二三七・六
栗木	同(銑)	二八二・七	二二五・三
重要金屬の產出狀況			
重要金屬の名		大正七年 二月	大正六年 二月
金		一六一、七六四 ^匁	一七一、七六七 ^匁
銀		四、三三三、一八七 ^匁	四、四九八、三七一 ^匁
銅		一一、一〇六、九二九 ^斤	一二、四二〇、七八三 ^斤
石炭の產出狀況			
鑛山名 所在地		大正七年 三月	大正六年 三月
夕張	石狩	一〇八、〇五九 ^{佛匁}	一〇六、二〇四 ^{佛匁}
真谷地	同	一五、〇一三	一六、六九五
新夕張	同	三四、五七四	二六、五八六
空知	同	三二、七五二	一九、三七〇
幾春別	同	五、八二一	八、二二〇
幌內	同	一八、九三一	一八、五八八
奔別	同	二〇、〇五九	一三、三五〇
三井登川	同	一四、一三一	一五、三四九
大夕張	同	七、三三六	八、九〇六
三菱美唄	同	三五、八二一	二九、〇三二
入山	福島	二七、〇〇六	二五、四四六
統計			

小野田	同	一六、五六三	二一、五六九
内郷	同	四一、三八五	三八、六九〇
王城	同	四、九八四	六、五四三
好間	同	三二、八四九	三〇、二六四
隅田川	同	七、三二三	六、二五五
平	同	六、三六二	六、五〇二
茨城無煙	茨城	一四、六七四	一三、七四〇
重内	同	一〇、〇八一	九、九〇三
山口無煙	山口	六、三二三	六、一六三
大日本炭礦	茨城	二五、六四五	一二、四六四
千代田	同	八、二六四	五、六四五
松浦	長崎	六、一八五	六、一七五
高島	同	三一、二五〇	二四、七九四
松島	同	三五、四〇五	二二、二〇一
崎戸	同	二八、三七二	二八、九一八
香燒	同	三、〇一九	二、七〇五
福島	同	六、一九二	七、九八一
沖ノ山	山口	二九、六九八	二六、六三四
大嶺海軍	同	六、四一三	五、四六八
東見初	福岡	三〇、三三一	一七、一六一
大辻	同	二九、五一九	二九、六八四
高江	同	一二、二五四	二〇、三五九
新海軍	同	三三、二九五	二〇、三七二
新原海軍	同	五六、一一六	三八、四四〇
岩崎	同	一一、八二八	八、一六九
六七九			

御德	新入	三好	大之浦	明治	三井本洞	鹽頭	木屋瀨	金田	大峯	三井田川	峰地	豐國	二瀨	忠隈	上山田	鯨田	豆田	三井山野	芳雄	下山田	三池	方城	大隈	高松	高田二坑
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八、五二二	三一、五〇五	一一、〇八三	六四、一三〇	五四、〇五一	一四、九六一	四二、九三一	一四、三三三	二〇、二七八	四一、八〇〇	七九、三六〇	五一、二五四	四一、一六一	六八、五六五	二七、六二二	一五、六三三	四四、六五八	一九、三四八	三七、七五四	二七、五一三	一三、七〇五	一七七、一七〇	二一、三九九	一一、〇八六	九、二六二	四、八二四
一一、六二〇	三四、〇五二	七、六五七	八一、六〇一	五六、六〇九	一八、二七八	四四、八九一	一一、八五三	二二、六八二	三二、五一八	九二、二二五	六〇、三四〇	四四、九六六	七一、八三一	三一、五一一	一七、六一八	四〇、八一八	一九、五五九	三六、四八六	三〇、〇五九	一二、二八九	一七四、五二〇	二〇、四八五	一一、三四二	四、四二四	七、二六九

飯塚	久原	久原	岩屋	芳谷	相知	杵島	福岡	姪濱	新目	宇美	野田	平山	泉水	三笠	旭山	龜山
山口	福岡	同	同	同	同	佐賀	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一八、一九五	一〇、六五六	一	二四、五六六	四三、七二四	三九、九三九	五六、九四五	一一、〇六七	二一、〇四七	六、三二四	三、〇五七	四、〇二〇	一二、二九二	七、六九一	五、六四六	八、三一二	七、六八六
一一、三〇八	八、四一二	二、三八二	二〇、一七〇	四一、九二七	三九、二一〇	五八、六三九	一一、〇〇五	二二、九四四	四、九四三	三、六九〇	四、〇一〇	一一、五八二	五、三二三	五、五八九	一一、二五一	七、八八九